

社会科学古典学習会

帝國主義論

LENIN(1917) "IMPERIALISM, THE HIGHEST STAGE OF CAPITALISM"

WRITTEN BY
VLADIMIR **LENIN**



4.30 tue.

17:00-19:00

学生会館 **215** 号室

produced by **MSL**

レーニン『帝国主義論』とは



1914年7月28日――欧州で第一次世界大戦が勃発しました。当時の政府や軍指導部は「戦争はクリスマスまでには終わるだろう」「この戦争はドイツ帝政を倒して『戦争を終わらせる戦争』になるだろう」などと楽観的な見方に支配されていました。しかし、『帝国主義論』の

著者であり、ロシア革命を指導した革命家のレーニン（上写真）は違いました。

第一次世界大戦が勃発するやいなや、戦争を「第一次帝国主義戦争」と規定し、「帝国主義」ということが戦争の本質的原因であること、そして帝国主義戦争は第一次世界大戦で終わらず近い将来再び勃発することを訴えたのです。

第一次世界大戦から100年が経った現代、レーニンの先見の明は明らかです。各国政府は当時、「中立国ベルギーの救済」「侵略国に対する自衛」などの大義名分を掲げましたが、それはペテンでしかないことが明らかとなっています。そして、第一次世界大戦が「戦争を終わらせる戦争」ではなく、レーニンの言う「第一次帝国主義戦争」であることは、第二次世界大戦の勃発により証明されてしまいました。

『帝国主義論』は、第一次世界大戦の原因を経済学的に解明し、各国の社会主義者や労働者に対して「銃を他国の徴兵された民衆に向けたらな！」「革命で戦争を推進する連中を打倒しよう！」と訴えた本です。



- ① 学生会館の正面出入口（左図★）から入ります。
 - ② ロビーの先に、右手に階段があるので上ります。
 - ③ 2階に「215」と書かれた会議室があります。
- ※わからない場合は、右記連絡先まで。

学習会終了後は渋谷で新入生歓迎交流会

学習会は授業と被って参加できない……という方も大歓迎です。新入生は参加費無料です。

※ **19時:学生会館集合**(左下地図★)

なぜいまレーニンか？

『帝国主義論』の執筆は100年前のこと。このことを以って、『帝国主義論』は現代では通用しないと主張する向きもあります。しかし、私たちは『帝国主義論』は現代でも十分通用する内容だと考えます。

例えば、日中関係・米中関係などを指して、「多国籍企業や企業の海外進出で経済関係が強いから戦争は起きない」という主張があります。ところが、このような主張はレーニンが『帝国主義論』の中で徹底的に批判しているものであり、その破産はとっくの昔に証明されているのです。

いま**一帯一路構想**や**米中貿易戦争**という形で、米国と中国を軸に新たな冷戦が生じ、軍事衝突の可能性も高まっています。そのような中で、日本では憲法を変えて自衛隊の軍備増強を図るべきだという主張が政府・与党からなされています。

こうした国際情勢を前にして重要なことは、表面的な事柄に左右されず、その本質を見抜くことです。『帝国主義論』は現代においても、いま世界で起きていることの核心は何なのか――これを考える重要な道筋を与えてくれます。



予習や持ち物は不要です。

レーニンのことを知らない人も、社会主義に興味のある人も、全員が楽しめる学習会です。

MSL：マルクス主義学生同盟（中核派）東京大学支部

Twitter @msl_chukaku

Web www.msl-chukaku.org

Mail msl-chukaku@protonmail.com